

「ありがとう」の綴り方

あるクリスマスの朝のことです。
枕もとにパンパンにふくれた靴下がおかれていました。
40歳をとうにすぎた僕にこんなプレゼントは妻の仕業です。



靴下の中には一冊のノートが入っていました。

実は僕は世界でも珍しいノート専門店の店主なのです。溢れるほどのノートに囲まれている僕に「なぜノートなの??」。

ノートを開いて、驚きました。

一冊分丸ごと「ありがとう」の言葉が綴られていました。

『いつも洗濯を手伝ってくれてありがとう』

『毎年、海に連れて行ってくれてありがとう』

1ページに一言づつ、それは日常の当たり前の出来事への『ありがとう』ばかりです。

「こんなことを覚えてくれていたんだ」とか、

「こんなことが嬉しかったんだな」とか、

「いや～、感謝されるようなことでもないんだけどな」とか、

でも妻の嬉しかったことが何なのかがよくわかりました。



そのノートはいつも鞆に入れて持ち歩いては友達に自慢をしています。

心塞ぐことがあっても、ふとそのノートを開くと、世界が光に溢れているような気持ちになるのです。自分の味方がすぐ傍にいてくれる気になるのです。

それから三ヶ月後、妻の誕生日に僕も「ありがとうノート」を書いてみることにしました。
もちろん、表紙には妻の名前入り、僕が手製本で仕上げました。



ノートは126ページ、片面に書いても60個以上のありがとうを考えなくてははいけません。

だんだんネタがなくなってきました。ウーン、と絞り出します。

すると不思議なことが起こり始めました。

僕が気付きもしないでいた妻の行動のすべてが愛に溢れたものと気付いたのです。

僕が当たり前前に思っていたこと、当然あるものと思っていたこと、そのすべてが当たり前ではなかったんですね。

「ありがとうノート」はもらった時も嬉しかったけれど、書く方がもっと嬉しいのです。

自分がどれだけ愛されているか、どれだけ感謝できることに囲まれて生きているかを教えてくれるのです。

「ありがとう」の綴り方・・・。

書けそうで書けない、伝えているようで伝えていない、気付いているようで気付いてない、そんな感謝のタネに気付かせてくれる素敵な宝物になりますよ。



リエノでは不定期に「ありがとうの綴り方」講座を開催しています。ご予約頂ければ随時開催も可能です。
あなたも思い切って、誰かに丸ごと一冊の「ありがとう」を綴ってみませんか？

<http://ileno.jp>